

私の 3 冊

門脇 遼

かどわき・りょう 言語聴覚士 13 年目

社会医療法人河北医療財団 多摩事業部 あい介護老人保健施設リハビリテーション科

介護老人保健施設（以下、老健）で高齢者への生活期リハビリテーションを行っています。新人から 8 年間は同法人の回復期病棟に勤務し、その間にデイケアや訪問リハビリテーションとの兼務も経験しました。ご紹介させていただく 3 冊は学生～若手時代、老健への異動前後、そして現在の仕事、その時々で私を支えてくれた（くれている）本です。

後輩に薦める 2 冊



失語症の障害メカニズムと訓練法 改訂第二版

小嶋知幸 著

新興医学出版 2005 年

学生時代に実習でお世話になった先生から薦めていただきました。失語症のメカニズムが明快に書かれており、新人から若手の時代は新規の患者さんを受け持つたびに読み返して評価や訓練プログラム立案の参考にしていました。失語症のポイントを簡潔に伝えやすいため、実習生の指導にも重宝しています。言語聴覚士としての根っこを作ってくれた思い出の深い 1 冊です。



在宅・施設リハビリテーションにおける 言語聴覚士のための地域言語聴覚療法

森田秋子、黒羽真美 編集

三輪書店 2014 年

老健へ異動する際に購入しました。介護保険領域や地域での言語聴覚士の働き方が網羅されており、新しい分野に飛び込む背中を押ししてもらいました。自分のかかわりは「患者さん、利用者さんの生活を豊かにできるものか？」を考えるためのヒントが散りばめられています。昨今は介護保険領域から言語聴覚士のスタートを切る方も多くなっています。介護保険領域や地域で働く、働き始める言語聴覚士にお薦めしたい 1 冊です。

自分の 1 冊



終末期リハビリテーションの臨床アプローチ

安部能成 編集

メジカルビュー 2016

多死社会を迎える中、老健で終末期を迎える方も徐々に増え、私の働く施設でも年間 50 名ほどの利用者さんをお見送りしています。終末期リハビリテーションは発展途上であり、参考書も多くはありません。手探りで終末期の利用者さんと向き合う中、出会った 1 冊です。この本は疾患や終末期を迎える場所ごとにアプローチ方法がまとめられており、当事者や家族の心を支えるためのスキルも学べます。終末期の方とかかわるすべてのセラピストに向けた内容となっているので、ぜひご一読ください。